

# 自分視点に他者視点を加え 志望分野に自分が関わる意味を探究 進路選択を社会とつなげていく

## ▶ 小山南高校(栃木・県立)

取材・文／永井ミカ

疑問をもっていた生徒は、担任の先生

「例えば「日本史の教科書にはなぜ男性ばかりが登場するのか？」という素朴な疑問をもっていた生徒は、担任の先生

「進路探究は進路希望によって課題や狙いが異なるため、大学、短大・専門学校、就職、公務員を別々のカリキュラムで、高校2年の総合的な探究の時間(ツール1)を使って実施している。」

**興味分野についての探究を  
繰り返しすることで、自分が学び  
関わる意味を深める**

### 進路指導の課題とテーマ

栃木県立小山南高校は、1学年に普通科とスポーツ科が2クラスある進路多様校。進路先とのマッチング指導や志望理由書指導、進路指導部面談など、退学や早期退職を防ぐため、学年の枠を超えて生徒に寄り添う丁寧な進路指導を行ってきた。

一方で、2年ほど前から、今後取り組むべき探究学習をどのようにするかという検討を開始。進路指導部の神田剛一先生が中心となり、課題研究という名で実施されている全国の先進事例を調査した。「多くが学力層の高い進学校の事例で、そのまま取り入れて本校で実践するのは難しいと感じました。特に解決すべき課題を見つけることのハードルが高かった」と神田先生。また、教員の負担増も懸案事項だった。

そんななか、過去の卒業生に、社会の課題に目を向け解決に取り組みよりよい社会を目指そうと大学進学にチャレンジしてきた生徒たちがいることを思い出した。彼らの試行錯誤のプロセスが「探究」そのものであると考えた神田先生は、同校の探究学習のテーマを「自らの進路」とすることで、生徒が与えられた課題よりも自分事として取り組むことができ、教員もこれまで力を入れてきた“志望理由につなげる進路指導”になるため大きな変更の負担をなくせると確信。卒業生へのインタビューや進路希望別の生徒の課題整理などを経て、自分の進路を社会の課題や実態と結びつけながら具体化していく進路探究学習を設計し、昨年度よりスタートさせた。

### ツール1 進路希望別進路探究実施計画

	大学希望	短大・専門学校希望	就職希望	公務員希望
1回目	進路ガイダンス(70分) 感想・次回以降の事前指導(30分)			
2回目	パンフレットによる学校研究	パンフレットによる学校研究	3年内定者との進路懇談	公務員試験対策講座
3回目	分野研究	短大・専門学校講演会／事前指導ワーク	業界・企業研究	3年公務員面接試験対策直前指導見学・参加
4回目	分野研究	業界・上級学校研究	業界・企業研究	公務員試験対策講座
5回目	分野研究	業界・上級学校研究	業界・企業研究	公務員試験対策講座
6回目	分野研究	業界・上級学校研究総括／指導／まとめ指導	業界・企業研究総括／指導	公務員試験対策講座

進路別に4分野、各6回。今年度は2年生10月から11月にかけて実施。「今後は同じ回数でも初回から最終回までの間隔を長くして、じっくり時間をかけて考えられるようにしたい」と神田先生。

薦めで『女性のいる近世』という本を読み、身分の低い女性たちが実は歴史の裏で活躍していたという史実を知ったという。それを現代社会の女性を取り巻く問題を解決するヒントにしたいと考え、関連する

ことが学べる大学の学部へ進んだ。このように意識せずとも自分自身で課題設定を行い、それに取り組むことでさらに探究したいことができ、それが進路につながっていった卒業生を調査。彼らは皆、

#### ◎進路状況(2018年3月実績)

大学進学36人、短大進学6人、  
専門学校45人、就職60人、その他5人

大学進学、短大・専門学校進学、就職と進路が多様。その割合もあまり変わっていない。進学希望者には学力アップのための指導を行う一方で、地元企業への就職にも力を入れ地域活性化に貢献している。

#### ◎School Data

創立1979年／普通科・スポーツ科／  
生徒数475人(男子268人・女子207人)

**ツール2 進路探究ワークシート (大学進学希望者対象)** ダウンロード可

ワークシートは表面に進路についての考えや調べたことを記入。終わったあとに通して見ることで自分の変化がはっきりとわかるようになっている。ワークシートの裏面には先輩の進路探究の体験談を簡単にまとめたものを掲載。どのように探究していけばよいか参考にできる。

**【大学コース】**

**裏** 3人の先輩の体験談

自分の進路希望を簡単にまとめよう

今日調べてみようと思ったことは？

他者の取り組み内容や研究、本の内容で興味を持ったことは？

新しく知った社会への関わり方(貢献や活躍)は？

比較したり、分類したり、関連付けしてみたことは？

興味がある分野・社会の現状や課題・問題点は？

自分の社会への関わり方について考えたことは？新たな興味や可能性は？

もっと調べたい内容や新たな疑問点は？

自己評価：志望につながる発見があった.....

5 取り組みの内容や自分の考えをまとめよう

今日調べてみようと思ったことは？

他者の取り組み内容や研究、本の内容で興味を持ったことは？

新しく知った社会への関わり方(貢献や活躍)は？

比較したり、分類したり、関連付けしてみたことは？

興味がある分野・社会の現状や課題・問題点は？

自分の社会への関わり方について考えたことは？新たな興味や可能性は？

もっと調べたい内容や新たな疑問点は？

自己評価：志望につながる発見があった.....

6 これまでの取り組みから自分の志望をまとめよう

将来の社会への関わり方、社会での役割、解決したい課題は？

そのために大学進学後、学びたいこと・研究したいことは？

その研究がどんな社会や組織、人々の生活の役に立つ？

その研究のために必要な環境や施設は？

今後の学校生活で力を入れて取り組みたいことは？

先輩の体験談でこれからの進路探究のイメージをもってもらい、現時点での自分の進路希望を書き出す。

その後4回にわたって、自分の視点 / 他者・社会視点から調べたいこと、わかったこと、さらに知りたいことのもとと調査を繰り返し、ワークシートに記入。

最後に、これまでの探究を経て、将来の社会への関わり方、解決したい課題から、大学進学後に学びたいこと、そのために今取り組みたいことをまとめる。

**【ある生徒の場合】**

「スポーツマネジメント・スポーツチームの運営」に興味があり、調べたいことは「就職先の種類」として進路探究をスタート。

探究しているうちにスポーツと地域の関連に気づき、「プロスポーツチームの社会貢献において、ホームタウンが中心になると地域間の不公平が生じる」という課題を発見。

その課題解決のために地域とプロチームの関係について学びたいという思いに志望が進化。それに向けて今取り組みたいのは学力向上とのこと。

短大・専門学校コースや就職コースでは、生徒は学びたい分野や就きたい職業につ

**自分視点だけに偏らず  
他者視点や社会との接続を  
考えられるガイダンスに**

授業は4コマで構成され、最初に3人の先輩の経験談から進路探究の具体的なイメージをもってもらったうえで、ワークシートに今の自分の進路希望、これから調べたいことを書き出してもらう。その後4回にわたり、調べてわかったこと、さらに知りたかったことのもとと調査を繰り返す。そこでは自分の考えだけではなく、他者や社会の視点から、そのテーマの社会的な意味や課題点、そこへ自分がどう関わりたいかを考えさせることを大事にしている。そして最後には、将来の社会への関わり方、社会での役割、解決したい課題から、大学進学後に学びたいことや研究したいこと、そのために今の学校生活で力を入れて取り組みたいことをまとめていく。

大学進学後も、履習科目の選択やゼミ選択、卒業研究などにおいて新たな課題を設定し、探究心を失わず学び続けていた。神田先生のインタビューでは、高校時代の彼らが進路指導のどういったことにハードルを感じ、どういったツールを使い調べ、どう考えて乗り越えていったかという過程も調査。それらを整理して、先輩たちの試行錯誤のプロセスを誰もが再現できるように、資料とワークシートの形でカリキュラム化した(ツール2)。

また、生徒自身がそれを自分事化しな

これまでのガイダンスでは、学校や企業からの一方的な宣伝になりがちだった内容を一新。短大・専門学校の場合、各分野に将来どんな可能性や課題があり、どのようなニーズが発生し、それに応えるためにどんな人材が必要なのかという観点から、それを育てるためのカリキュラムや施設などの話をしてもらう。「例えば、今どういった資格が取れるかではなく、5年先、10年先の未来を語ってほしい」と考えています。そして生徒にも、目先の進学や資格だけではなく、どういった保育士になりたいか、どういった看護師になりたいかを考えてほしい」と神田先生は言う。

企業の場合も同じだ。「生徒には、車が好きだから自動車関係の仕事に就きたいという自分視点の他に、その企業は自分以外の人や社会にとつてどのような存在なのかという他者視点ももつよう指導する」ということで、ガイダンスでは社会への貢献、人々への関わり、存在価値などを中心に、社会との接続に力点を置いて話してもらっている。

いてある程度の志望はもっているが、限定的な知識と情報のなか、自分との紐づけが弱く漠然とした志望になっているという課題があった。そのため、自分が進みたい分野や業界のリアルな実態や将来性などに触れることで、ただ自分がやりたいというだけではなく、自分の適性と社会での役割を考えながら進路選択ができるよう、上級学校や企業のガイダンスを柱に、進路探究のカリキュラムを設計した。

ワークシートは、学校や企業との「対話」を前提に作られており、項目を通して、他者視点や社会の中での役割や貢献を踏まえ、その分野や業界を理解できるようになっている。

【短大・専門学校コース(抜粋)】

職業探究(短大・専門学校コース) 1頁(1/1) 2年 職業 高校 高校

職業・進路探究

1. 【事前】自分の興味を持っている職業について知っていることを書き出す。  
 知っていること以外を書き出す。どんな資格が必要なのか、今後その業界はどんな発展が予想されるのか、を調りたいこと。

2. 上記学校の方向性の職業に関する対話の内容をまとめてみよう。

職業名	今後の業界の発展について	現在の業界の課題とニーズ	業界で今後必要となる人材	その他
1) 1) (1) (1)				
2) 2) (2) (2)				
3) 3) (3) (3)				

3. 上記学校の方向性の学校に関する対話の内容をまとめてみよう。

学校名	どんな人材育成を重視している?	特徴的なカリキュラムは?	就職体験や講座は?	その他
1) 1) (1) (1)				
2) 2) (2) (2)				
3) 3) (3) (3)				

4. 【対話後】上記学校の方向性の対話で、強く印象に残ったことや新しい自分の目標や夢をまとめてみよう。

【就職コース(抜粋)】

職業探究(就職コース) 1頁(1/1) 2年 職業 高校 高校

職業・進路探究

1. 【事前】自分の知っている会社の名前やイメージ、知っていること、会社の社会での役割などを書き出す。

職業名	業界	職種/職種	所属	就業先

2. 上記学校の方向性の対話

対話内容・やり取り	自分の学びや気づき	今後の新しい取り組み	その他
企業内容・やり取り	自分の学びや気づき	今後の新しい取り組み	その他
1) 1) (1) (1)			
2) 2) (2) (2)			
3) 3) (3) (3)			

3. 上記学校の方向性の対話の感想をまとめてみよう。

新しく知ったことや気づいたこと、感 興味を持った会社や仕事内容、働き方を書き出そう。

自己評価

上級学校の担当者との対話の内容をまとめる。「業界」に関することと「学校」に関する内容を別々にまとめるのがポイント。

企業の担当者との対話の内容をまとめる。「会社の取り組みで社会はどう良くなる? どんな人の生活が豊かに・便利になる?」などの視点で書き込むようになっている。

が考えられるよう、大会場での一方的な講義ではなく、少人数グループで対話ができる形式の説明会とし、生徒はワークシート(ツール3)を踏まえ、今後の業界の発展や将来必要となる人材像、そのためのカリキュラムなどについて聞き取りながら自分の言葉でまとめていくことになっている。

従来の進路行事を活かし 探究や進路指導全体との つながりや意義を意識

今回の進路探究の導入にあたり、これまでの進路行事をなくしたり、大きく変更したりということは行っていない。むしろ、丁寧に実施してきた進路指導はその

ままの形で残している。

例えば、1対1の進路部面談は2年生の3学期に実施。そのときの担任ではなく、3年生の担任団と進路指導部教員が生徒を受験生として扱い面談するというものだ。また、志望理由書の指導は2年生と3年生の2回実施。2年生で一度経験することで、3年生ではより自律的、自主的に書けることが狙いという。

これらの指導は探究学習とのつながりを意識。面談は、探究のさらなる「情報収集・整理分析」に、志望理由書は探究の仕上げである「まとめ・表現」になるようスケジュールを組んだ。

また、これまではさまざまな進路行事が単発的に行われていたが、生徒にとっても自分の成長履歴として残せるようポートフォリオを導入。「何のために今、この進路行事をやっているのか、どう自分が成長しているのかを、点ではなく線で自覚させたいと考えています」。

そして、いずれは3年間を通して進路行事と探究学習、教科学習を有機的につなげたプログラムを作り上げていく予定だ。



大学進学希望者はPCなどを使って探究。それ以外の進路希望者は人との対話のなかで考えを深める。

成果と課題

生徒一人ひとりが より良い社会の担い手になるために 進路と社会を近づけていきたい

自分自身の進路への考え方の変化や 深化を体験的に学び、これからやるべき ことまでしっかり意識できた生徒もいた。

ただし課題もあった。昨年度は時間が十分にとれず、生徒主導では進めることが難しく教員が教え引張る場面が多かった。そのため今年は1年の3学期からスタート。先生が支援しながらまずは与えられたテーマで探究を1プロセス回し、テーマが変わっても自分でやれるよう、探究の方法論を学ぶステップを入れている。それを経て2年生から進路希望別の進路探究を行うことで、自律的に探究のプロセスを回せるのではと期待しているという。

進路探究で神田先生が最も大事にしているのは、自分視点だけではなく他者視点を意識することで、社会の中で自分がそれを選択することの意味をしっかりと考え、将来にわたって活躍できるイメージをもって進路選択すること。

「本校が目指したいのは、大学に何人受かったかということだけではなく、一人ひとりの生徒がより良い社会の担い手になれること。進路探究を通して、そのための自分自身の在り方を見出し てほしいと願っています」



進路指導部 神田剛一先生